

2020 大会まで3か月！がんばるボランティアの皆さんへ贈る！ 「君に捧げる応援歌/ボラサポフェス ver.」PV 動画公開！ HIPPY さん、木下航志さん、伊藤真波さんによる異色のコラボ

2020 東京大会の開幕まで3か月となる中、一般財団法人日本財団ボランティアサポートセンター(以下、ボラサポ)では、シンガーソングライターHIPPY さんが歌う「君に捧げる応援歌」に、和製スティービー・ワンダーと呼ばれる全盲のピアニスト木下航志さんと、元パラリンピック競泳日本代表・片腕義手ヴァイオリニスト伊藤真波さんの演奏、さらには手話パフォーマー佐藤晴香さんも加えた特別プロモーションビデオ「君に捧げる応援歌/ボラサポフェス ver.」を作成し、4/23(金)より動画視聴サイト「YouTube」にて公開しました。本件の幅広い周知にご協力の程、どうぞ宜しくお願いいたします。



動画 URL: <https://www.youtube.com/watch?v=yDzGft420PY>

■本動画を作成するにあたっての経緯

ボラサポでは、東京2020大会の開催に向け、ボランティアの皆さまと心をひとつにしてモチベーションを高めていこうとの思いから、3月27日(日)にオンラインイベント「Tokyo Volunteer 2020 ボラサポフェス ～動かせ。世界中の気持ちを～」を開催し、Field Cast (大会ボランティア) や City Cast (都市ボランティア)、各自治体で募集運営するホストタウンや聖火リレーのボランティア、約3,000人にご参加いただきました。

その演出の一つとして、HIPPYさん、木下航志さん、伊藤真波さんによる生ライブを行い、非常に好評であったことから、大会にむけて各々で準備を進めているボランティアの皆さんの背中を後押ししようと、今回の特別バージョンのプロモーション動画の制作に至りました。

※右写真はボラサポフェスでのライブの様子。ボラサポフェスについてはボラサポ公式サイトでのレポート記事をご参照ください。 <https://www.volapso.tokyo/column/2020/4880/>



一般財団法人日本財団ボランティアサポートセンター 概要

2017年6月に、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会と日本財団が締結したボランティアの連携・協力に関する協定に基づき、当該協力に係る事業を実施する団体として設立されました。当財団は、ボランティア育成を通じた2020東京大会の成功と、大会後に繋がるボランティア文化の醸成を目指しています。

所在地: 〒107-0052 東京都港区赤坂 1-2-2 日本財団ビル 3階

代表者: 渡邊 一利(笹川スポーツ財団 理事長) 設立: 2017年9月29日

■動画出演者

HIPPY さん(シンガーソングライター)



2015年にメジャーデビュー！代表曲「君に捧げる応援歌」のMVは470万再生を記録！プロ野球チーム8球団の選手が登場曲に使用されており、2020年度プロ野球選手の登場曲「タイトル別ランキング」で1位を獲得！多くのアスリートや、災害などで困難から立ち向かう方へ日頃の葛藤、悩みと戦っている方へ、全ての夢追い人へエールソングを始め、HIPPYの様々な曲が人から人へ全国に全世界にじわじわと更なる広がりを見せているHIPPYに今後も乞うご期待！

木下航志さん(和製スティービー・ワンダーと呼ばれる全盲のピアニスト)



1989年鹿児島県生まれ。未熟児網膜症の為、生後一か月で失明。2歳からピアノをスタート。10歳の時NHKのドキュメンタリーTV番組にて紹介される。14歳で再びNHK「木下航志14歳の旅立ち」で紹介される。2005年愛・地球博EXPOのジャパンウィークに参加。2006年デビューアルバム「絆」をリリース。2009年国連本部にてパフォーマンスを行う。2017/18年パラフェス、パラ駅伝でパフォーマンスを行う。現在まで3枚のミニアルバム、2枚のフルアルバム、2枚のシングルをリリースしている。2020年[木下航志ミュージックチャンネル](#)をスタートする。

伊藤真波さん(元パラリンピック競泳日本代表・片腕義手ヴァイオリニスト)



看護師を志していた20歳の時、交通事故で右腕を失う。失意のどん底から、不安や葛藤を乗り越え、日本初義手の看護師となる。また、リハビリとして始めた水泳から、水泳日本代表として北京、ロンドンパラリンピックに出場。4位、8位とともに入賞を果たす。現役引退後、幼少期より始めたバイオリンを再開するためバイオリン専用の義手を製作。義手の改良、鍛錬に10年の歳月をかけ、現在世界初義手のバイオリニストとして活動中。

佐藤晴香さん(手話パフォーマー)



大学から手話を始める。ろう者である心友との出会いをきっかけに聞こえない友人たちと会うようになり、生きた手話に魅了され続けている。小学校では競泳、中高では水球に打ち込み、大学時代は大好きな生物学を専攻、イトマキヒトデの変態と免疫の関係について研究していた。現在はダイアログ・ミュージアム「対話の森」の運営に携わり、ダイアログ・イン・サイレンスにて音のある世界と静寂な世界との架け橋となるサイレンス・インタープリターを務めている。